

生涯教育

2018

夏

季刊 No.117



- 2017年度 奨学生成果発表 2
- 歴史研修「蝦夷の城めぐり」 6
- 美術鑑賞「春日、^{はるひ}耀く美術館をたずねて」 8
- プロフィール・インタビュー
スタンレー電気株式会社 顧問 古屋 滋さん 12

いつでも どこでも だれでも学べる



公益財団法人 北野生涯教育振興会
KITANO FOUNDATION OF LIFELONG INTEGRATED EDUCATION



前列左から：岩本真理子さん、柴崎義雄さん、市橋淳平常務理事、齋藤育代さん、阿部涼子さん、秋山和江さん
中央：馬込菜穂子さん、鈴木美佳さん、斎藤恭子さん、鹿島裕子さん、行澤雅代さん、小西陽子さん、金子友紀さん、渡邊ゆうさん
後列：佐々木友香さん、張依明さん、嘉澤剛さん、奥山武さん、井出陽子さん、小山文彦さん

2017年度 奨学生成果発表

学ぶ姿勢が切り拓く 人生の新たな可能性

2018年3月23日、2017年度奨学生成果発表会が行われた。科目等履修生12名、放送大学大学院修士全科生8名の計20名が、それぞれの研究成果と今後の展望を発表した。

科目等履修生

秋山 和江さん

山梨英和大学
人間文化学部人間文化学科

「母語である日本語を世界の一言語と捉え、専門的・体系的に学び直す」、「日本語が非母語話者への日本語の指導法を学ぶ」の2点をテーマに研究した。大学の講義は、いずれも密度が高く、多くの学びがあった。全修得科目の平均点は96点という満足いく結果が得られた。今後も学び続け、学んだことを社会に還元していきたい。

阿部 涼子さん

立命館大学
文学部

子供の頃の夢だった教師に再チャレンジ。現代の競争社会では子供が自己肯定感を持ちにくくなっていると実感した。私は教師となつて生徒たちの自己肯定感

を育み、より多くの方がより豊かな人生を選択して生きていける世の中にしたい。

出井 陽子さん

自治医科大学
看護学研究科

助産師をしながら「A病院における妊娠糖尿病患者者に対する継続的フォローの実態調査」をテーマに研究した。仕事をしながらの科目等履修は大変だったが、看護大学の教員(研究職)への異動が決まった。奨学生となったことが勉学への意欲を引き出した。感謝している。

小山 文彦さん

龍谷大学
文学部

歴史への興味から「日本人や仏教について知りたい」と思い、定年後、奨学生となった。快適な学生生活を過ごせた。卒業後は東北に戻り、東北から日本の歴史を眺め、大学で学び覚えたことを東北

の真の復興に役立てたいと思っている。

嘉澤 剛さん

京都大学
農学部

貧しい家庭で生きる海外の子供への思いから、貧しい人々に融資や貯蓄などの金融サービスを提供する「マイクロファイナンス」を研究した。これはアフリカでは成功していない。その方法を探るため4月から大学院で生物資源経済学を研究している。発展途上国が先進国の仲間入りしていく環境づくりに貢献したい。

齋藤 育代さん

立正大学
心理学部対人社会学科

障害児・者や精神障害の方をもっと理解したいと思い、障害児・者心理学を履修した。大学での学びはすぐにデイサービスや就労支援の場で役立てることができた。今回の学びをステップに、認定心理士の資格取得に挑戦したい。また、身につけた知識を活かして多くの人の心のケアに役立てたい。

佐々木 友香さん

東北福祉大学
総合福祉学部

「子供の未来を守りたい」との思いから養護教諭一種免許状の取得に挑戦した。実習では「対象者理解とコミュニケーション」と「チー



成果発表風景

ム医療」を学び、特に「チーム医療」では医療者同士のコミュニケーションが患者さんの理解と根拠ある治療につながることを実感。これから養護実習に臨む。子供たちと歩幅を合わせて伴走できる養護教諭になりたい。

柴崎 義雄さん

立正大学
仏教学部

お寺の近くで育つたため、仏教に高い関心を持っていた。定年後、改めて仏教を体系的に学び直したいと思い奨学生になった。サンスクリット語は一年間で基礎を身につけることができた。インドや中国の仏教史も学んだ。これらの知見を元に、今後は仏教史の偉人や思想の変遷などを研究したいと思っている。

清水 優美さん

国立音楽大学
アドヴァンスコース(歌曲ソリスト)

「イタリアオペラ・歌曲における発声技術や表現力の向上」と「イタリア語歌曲の歌詞」を研究した。ローマとミラノへの短期留学ではオペラが生まれた環境の中で学ぶことができ、声乐レッスンやオペラの歌詞研究をする上で有意義だった。9月からはミラノに長期留学。帰国後は演奏活動やクラシックを身近に聴ける環境を提供する仕事をしたい。

張 依明さん

早稲田大学
日本語教育研究科

学生時に日本語教育に興味を持ち、日本語教師を目指してこのたび奨学生として学んだ。日本語を教える経験をさせてもらったのは有意義な経験となり、お陰で大学院に合格できた。今後は中国人向けの日本語教科書を研究し、日本語の系統的な指導や教材づくりに役立てたい。将来は中国での日本語教育に貢献したい。

行澤 雅代さん

國學院大学
学校図書館司書教諭課程

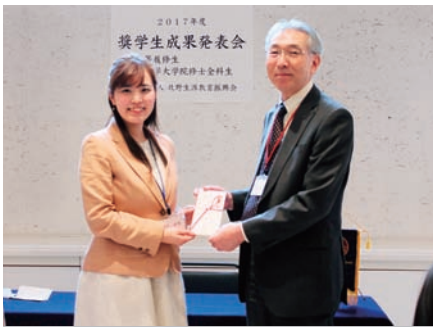
司書教諭の資格取得の傍ら、国語教育と情報指導、読書指導の関連性を活かした指導法を研究した。現在の司書教諭は生徒

に十分な読書指導ができていないこと、読書指導を行うには広範な情報収集能力とメディアリテラシーが求められることを知った。これらを満たせば生徒の学習意欲をさらに高められると思う。また、新卒で科目等履修生を活用する方法はあまり想定されていないので、私の実績が後進の励みになればありがたい。

渡邊 ゆうさん

東京藝術大学
美術学部

美術予備校に勤めた経験から美術教育に興味を持ち、教職課程を履修した。美術を教える先生には生徒に対する「傾聴」という基本的なコミュニケーション能力が大切だと分かった。今年度から教員になったが、今回の体験を大切に、生徒との関係を築きながら自身も制作実践と知識の獲得に励み続けたいと思う。



奨学金を授与される清水優美さん

放送大学大学院 修士全科生

岩本 真理子さん

多死社会を迎えるにあたり、約200万円という日本の平均葬式費用の妥当性を研究。高額葬儀を統計面、宗教面、葬儀社のプラン、アンケート結果(80名)から検証し、修士論文「高額葬儀と弔いについての研究」を執筆。今後は高額葬儀費用捻出が困難、信仰を伴わないお布施や告別式は必要性が希薄という結論を得た。将来は、お金をかけなくても心がこもった葬儀ができる仕事に就きたい。

奥山 武さん

修士論文は「狂言における太郎冠者像」。日本の古典と能楽に興味があり、南北朝や室町時代の能楽台本から狂言の太郎冠者について学んだ。ゼミで先生の指導や院生との交流に刺激を受けながら2年間学べたのはとても有意義だった。今後は放送大学院の能楽研究所でさらに学び、日本能楽学会での発表もしてみたい。

鹿島 裕子さん

女性進出が遅れている建設業でも活躍している女性がいる。そうした女性30名以上に取材し、

修士論文「建設業女性技術者のキャリア形成に関する分析」を執筆。女性が活躍し続けるには本人に強い自己肯定感があることが大切だと分かった。今後は学んだことを活かし、将来は博士課程で女性のローカルビジネスを研究したい。

金子 友紀さん

学習に遅れのある児童に学習支援をした経験から、児童の様子を伝える「連絡帳」がどれだけ子供の心理的課題を克服するかを事例を通して研究。私自身のある女兒への学習支援を事例に、連絡帳というツールが心理的課題の克服に効果があることが分かった。学びにゴールはない。今回の経験を糧に今後も学びたい。

小西 陽子さん

企業によって従業員の健康に格差があることから、「従業員50人未満の小規模事業所の産業保険サービス拡充に向けた地域産業保険センターの看護職の役割の考察」を研究した。現在、地域産業保険センターが満足に機能していないことがわかった。今後は福祉方面、特定医療行為にも視野を広げて勉強していきたい。

馬込 奈穂子さん

自己肯定感が持てない青年と養育者との関わりについて知りたいと思、「母親のベネフィット・

フラインディングが発達障がい者に及ぼす影響」をテーマに論文を執筆。青年には精神的な支援や情緒サポートが途切れると心身の健康が損なわれることが分かった。日本における青年の発達障がい者支援はまだ確固たる支援体制ができていない。青年の精神的課題を受け止め、成熟を支える仕事を今後も続けたい。

鮎田 美佳さん

「プロ野球におけるファーストキャリアとセカンドキャリアの影響」を研究した。セカンドキャリアへの歩みを成功させる野球選手にはニュートラルな期間と協力者がいることがインタビューなどを通して分かった。また日本は海外に比べプロスポーツ選手に対してのキャリア形成の保証が薄いことが課題だと分かった。多くの選手が物心両面で報われる環境づくりに寄与したい。

斉藤 恭子さん

「高校生の生きる意味を問いかける関わり」や、基本は「対一のカウンセリングを集団へと発展させる方法を研究。佐藤初女さんの「おむすび」の話やフランクル『夜と霧』等を題材に、高校生たちに「生きる意味」について自由記述をしてもらい、彼らにアイデンティティと未来を切り拓こうとする意識が芽生えるのを確認した。これからも高校生に寄り添い、共に苦しみに立ち向かいたい。

伝統文化「雅楽」に親しむ

6月9日、めぐろパーシモン小ホールで「雅楽」の入門講座が行われました。基礎知識の解説に加え、「越天楽」などの実演を通じて、参加者は楽しみながら雅楽の知識を深めることができました。

千年を経てなお進化

平安時代から千年以上の時を経て今日まで伝えられてきた、日本を代表する伝統音楽——。それが雅楽です。その起源は5世紀以降に大陸から伝えられてきた多彩な楽舞や日本で歌われてきた歌物に行き着くとされ、多数の音楽が融合する過程で日本人の感性に合うかたちで大成したといわれています。

主に宮中の儀式の音楽として演奏されてきた雅楽ですが、宮内庁楽部の雅楽がユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されるなど注目を集め、昨今では芸術音楽として鑑賞する機会も増えています。失われた正倉院楽器の復元演奏や過去に廃絶した曲の復元といった再生活動が展開されるとともに、現代作曲家による雅楽の曲目の作曲など、千年を経た現代にあって、新しい動きも生まれつつあります。

協奏による優美な調べ

雅楽には歌や舞の有無・成立した時代などによって複数の種類が存在しますが、中でも最も華やかで有名な「管絃」と「舞楽」でしょう。「管絃」は楽器の合奏のみを聴かせるものを指し、舞がつくものを「舞楽」と呼びます。

「管絃」は平安時代に貴族たちが楽器を持ち寄り、音

体験コーナーも設置

第一部と第二部の休憩時間を利用してロビーでは各楽器の、舞台では舞の体験コーナーが設けられました。どちらも大盛況で、参加者の皆さんは一样に楽しんでおられました。



楽しく真剣に筆箏に挑戦

今回演奏いただいた「伶楽舎」は、雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足した雅楽演奏グループです。

発足以来、現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復元や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、国内外で幅広い活動を展開しています。

メンバー紹介

宮丸直子：お話、鞆鼓	田淵勝彦：琵琶、筆箏
三浦礼美：笙、太鼓	平井裕子：箏、太鼓
東野珠実：笙	谷内信一：鞆鼓、龍笛
五月女愛：笙	中村華子：鉦鼓
中村仁美：筆箏	伊崎善之：舞
鈴木絵理：筆箏	村岡健一郎：楽器体験スタッフ
β野護元：龍笛	角田眞美：楽器体験スタッフ
田口和美：龍笛	

『越天楽』とは

雅楽で最もよく知られている曲目。管絃専門の小曲ですが、他曲にはない優雅で独特な旋律を持ち、比類なき名曲として伝えられています。この旋律は、『越天楽』に歌詞を付けた『越天楽 今様』のほか、謡曲や箏曲、民謡の黒田節にも取り入れられるなど、ジャンルを越えてさまざまなかたちで受け継がれています。



雅楽のお話をされる「伶楽舎」宮丸直子さん



豪華な装束や面を身にまとい、華麗に舞う舞楽

楽を奏でて楽しんでいたことが起源となっています。特徴は、複数の楽器を使用して、雅で繊細な旋律を奏でること。オーケストラのことを「管絃楽」と呼ぶことがあります。が、それは雅楽の「管絃」が由来となっていて、管絃自体も「平安のオーケストラ」という形容をされる場合があります。理論上は舞楽の曲を含めたあらゆる曲を演奏できるのが「管絃」ですが、今日「管絃」に当たるのは、中国系統の舞楽である唐楽の曲のみ。その一方で、楽器編成において、舞楽では原則使用しない琵琶や箏といった弦楽器を用いることが、「管絃」の最大の特徴となっています。

楽舞を交えた勇壮な演目

一方、「舞楽」では、豪華絢爛な装束をまとった踊り手が力強く舞いを披露する演目が少なくありません。室内でしめやかに演奏される「管絃」に対して、「舞楽」はお寺の法要などにおいて、野外でダイナミックに演じるものが多いのです。元々、大陸のさまざまな地域から伝わった舞楽は舞のある演目がほとんどで、音楽にも舞踊にも多種多様な形式がありました。そこから演奏だけを楽しむ「管絃」が発展したため、「舞楽」の方が「管絃」よりも起源に近いこととなります。「舞楽」には、中国起源である左方と朝鮮半島系起源である右方に加え、舞の姿などによって数多くの分類があります。また、「管絃」と「舞楽」ではアクセントの付け方や息継ぎが異なり、「管絃」では柔らかく繊細な表現、「舞楽」では力強い響きと、演奏方法でも区別がつけられています。

当日は通常「管絃」では主旋律に使用しない楽器をあえて主旋律にしたアレンジバージョンを披露するなど、鑑賞に来られるお客さまに、工夫を凝らした演奏をお楽しみいただきました。

※ページ内の文章は、「伶楽舎」宮丸直子さんの文章を基に作成しました。

管絃の楽器

しょう
笙

17本の竹を縦に束ねてあり、その形は鳳凰が羽を休めている姿とも言われます。息を吹いても吸っても音が鳴るので途切れることなく音を鳴らし続けることが出来、主に、5~6の音を重ねて「合竹」という和音で演奏します。手元の火鉢で楽器を温め、調子を整えます。



太鼓

火焰の飾りの付いた枠に吊してあり、吊り太鼓とも呼ばれます。左手で打つ弱音の「囀」と右手で打つ強音の「百」をセットで打つことが多く、繰り返すリズムパターンの終わりに打たれ、曲の後半では沢山鳴らされます。



歴史研修（その9）

2018年5月16日(水)～17日(木)



道内唯一の日本式城郭
松前城の前で



蝦夷の城めぐり

今回は北海道・函館と松前を探訪。
北海道の重要拠点として日本の近代史上で大きな存在感を示す
五稜郭と松前城を巡りました。
江戸時代から明治初期の北海道の歴史について
学びを深める研修となりました。

解説

静岡大学名誉教授

小和田 哲男さん



五稜郭

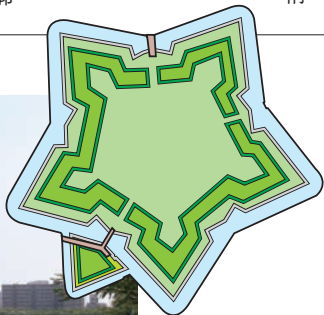
一行が最初に訪れたのは、北海道のランドマークの一つにも挙げられる五稜郭。函館がまだ「箱館」と表記されていた1857（安政4）年から、開港場防備の拠点として徳川幕府により建設されました。ヨーロッパの城塞都市を参考に、日本の築城技術も応用しながら蘭学者の武田斐三郎が設計を担当。外構工事が一部縮小されるなど変更を経て、日本における初期の洋式城郭として、7年の歳月をかけて完成しました。



星形をした「和魂洋才」の象徴 五稜郭

成されています。堡壘と半月堡の外周には堀を掘った土で造られた土塁と石垣が築かれ、石垣の最上部には敵の侵入を防ぐ「忍び返し」を設置。門をくぐった先には見隠塁を築いて内部を見えなくするなど、防衛の工夫が随所に盛り込まれています。

列強諸国の脅威に備えて造られたこの堅固な要塞がとりわけ注目を集めたのは、1868（明治元）年。かの戊辰戦争の最終決戦である、箱館戦争の舞台となったときでした。折しも明治元年から150年に当たる今、改めて明治維新に思いを馳せる機会となりました。



五稜郭の全体図



お堀から五稜郭タワーを望む

※箱館戦争

1868（明治元）年に起きた、戊辰戦争最後の戦い。榎本武揚率いる旧幕府軍が、新政府が置いていた箱館府を占領したことに端を発し、蝦夷地（北海道）を巡って争うことになりました。

当初は旧幕府軍が戦況を有利に運んでいたものの、1869（明治2）年に新政府軍が戦艦の動員と兵力の増強を行ったことによりパワーバランスが逆転。旧幕府軍に身を寄せていた新撰組副長の土方歳三が戦死するなど、激しく厳しい戦いを強いられる中、黒田清隆による降伏勧告を旧幕府軍が受け入れたことで、およそ6カ月間に及ぶ戦争は終結しました。

なお、開戦時点で箱館をはじめとした蝦夷地の主要部を制圧していた旧幕府軍は、「蝦夷共和国」として独立する構想を抱いていたと言われています。この戦争の勝敗の行方が変わっていたら、その後の歴史も大きく変わっていたでしょう。



城壁の説明に熱心に耳を傾ける参加者



八重桜とたんぽぽが美しい五稜郭

松前城

続いて一行は松前城を訪問。松前城は、松前藩主の居城で、江戸時代初期にロシアの南下政策を阻止する目的で建築された「福山館」が起源となっています。そのため、国の指定史跡には正式名称である「福山城」として登録されています。海側からの艦砲射撃に備えて砲台を整備するとともに、城壁の中に鉄板を仕込むなど、珍しい構造も見られます。

北海道で唯一にして日本で最後に造られた和式城郭である松前城ですが、和式城郭としては

最北に位置するだけに、築城に際して忘れてはならないのが寒冷対策。凍結による破損やひび割れを防ぐため、天守や櫓、門の屋根には粘土瓦の代わりに銅板を葺いたほか、春先に奥の土が溶け出してしまわないよう、石垣では隙間を埋め尽くすように石が積み

られました。この「亀甲積み」とも呼ばれる積み方で隙間なく石を積んだ石垣には、戊辰戦争当時、攻め手の土方歳三の攻撃を受け、た際について弾痕が今も残っています。

松前城は、1606(慶長11)年の福山館の完工以来、江戸の泰平と幕末の動乱、そしてその後の世

の移り変わりをみつめてきました。国の重要文化財に指定されている本丸御門と北海道の有形文化財に指定されている本丸表御殿玄関は、往時の面影をそのまま今に伝えています。

一行はその後、千代の山、千代の富士の偉業を伝える横綱記念館と、現在は総合複合施設として利用されている函館市の金森赤レンガ倉庫を見学して、帰途に着きました。今回は、全国屈指の桜の名所であり「2カ月にわたって花見ができる」といわれる松前

城で、桜も楽しみながらの歴史研修。北の大地で春の訪れを五感で味わいながら、学びに満ちた二日間の研修を終えました。

※亀甲積み

石材を加工して積み上げる「切り込み接ぎ」の一種。ノミで丹念に整形して六角形の石材を作り上げて隙間なく積んださまが亀の甲羅の模様のように見えるため、こう呼ばれます。特徴は、力が均等に分散するため、崩れにくいこと。中でも比較的柔らかく加工しやすい緑色凝灰岩が使用された松前城は、緑色の石垣に覆われた珍しい城として有名です。



江戸の街並を再現した松前藩屋敷



廻船問屋



商家の様子

松前藩屋敷

幕末には世帯数8,000戸・人口3万人を数え、仙台以北最大の都市として栄華を誇った松前藩の当時の様子を再現したのが、松前藩屋敷です。奉行所や武家屋敷、商家からなる14棟の建物は、北前船による本州との交易で栄えた当時の文化・風土をありありと伝えています。



遅咲きの桜が満開



解説を聞きながら松前城までの坂道を歩く参加者



お堀越しの松前城

寺町

松前城の北側には、道内唯一の寺町が今なお残されています。エリア内には国指定の重要文化財である山門を有する龍雲院をはじめ、阿吽寺、法幢寺、法源寺、光善寺の5つの寺が現存。歩いて回れる距離に集まっているので、それぞれのお寺が伝える長い歴史を肌で感じながら歩くことができます。



歴史を感じさせる阿吽寺



龍雲院
(国指定重要文化財)



法源寺
(山門は国指定重要文化財)



「美術鑑賞」(その56)

2018年3月25日(日)~26日(月)

はるひ 春日、耀く美術館をたずねて —水上、糸魚川、富山

例年より早くに桜の開花宣言のあった東京を出発して、群馬県の上水、新潟県の上水、新潟県の上水を経て富山県富山市へと、2日間で4つの美術館を訪れました。いずれの美術館も素晴らしいコレクションと個性的な建物を有し、独特な耀きを放っていました。世界最速の芸術鑑賞、「現美新幹線」へも乗車しました。講師にお迎えしたのは美術研究者 沼辺信一さんです。

- 天一美術館
- 谷村美術館
- 富山県美術館
- 富山市ガラス美術館

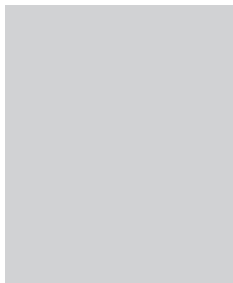
天一美術館

「銀座天一」の創業者矢吹勇雄氏がコレクションを展示するために、別荘を所有していた縁で水上の地に建てた美術館。岸田劉生「麗子像」を核に、梅原龍三郎や熊谷守一、ルノワールやマチスなどの名品が収められています。

学芸員片野さんが「劉生は38歳で亡くなるまで、自分の娘「麗子」をひたすら描き続けたことで知られる大正時代に活躍した画家です。「麗子像」は斜め前からとらえたものが多いのですが、当館所蔵の正面向きは非常に珍しいものです。完成してからも4回にわたって加筆されており、劉生が特に大切にしていた作品です」とお話ししてくださいました。



谷川岳を背に建つ和風モダンな建物は建築家吉村順三氏の遺作。大きなガラス窓から見る「切り取られた谷川の自然」も素晴らしい



岸田劉生「麗子像」
天一美術館所蔵

谷村美術館

彫刻家澤田政廣氏の作品を展示するために、建築家村野藤吾氏によって設計された美術館。6つある展示室の全てが、展示される仏像彫刻に合わせて作られています。「展示作品が決まっています、それに合わせて建物をつくる」という美術館の理想がここにありました」とは沼辺講師の弁です。

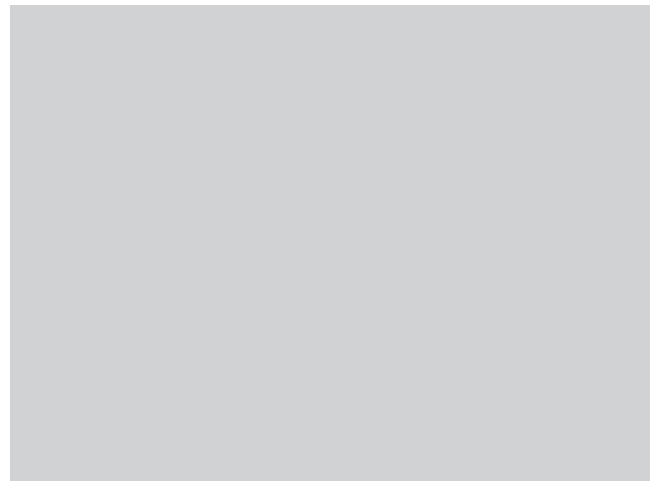


背景はシルクロード砂漠の遺跡に見立てて設計された建物。館内は石窟調で、展示空間の作品は天候や時刻によって違った表情をみせる

富山県美術館

立山連峰の眺望を楽しめる空間を生かし、人々が気軽に集える場所に「人々とアートやデザインをつなぐ美術館を」と昨年8月に開館したばかりの美術館。ギャラリーやアトリエも併設され、遊具で遊べる屋上庭園「オノマトへの屋上」は多くの家族連れで賑わっています。

沼辺講師が「今回特に見られたらいいなと思っっているのはピカソ19歳の作品。バルセロナ時代のバステル画で、すごくきれいな、皆さんの知っているピカソとは全く違う、素直な絵です。運良く見ることができたなら、若い、才能ある絵描きの絵とすぐに分かります。よくぞ日本にあってくれましたと感心します(作品は下)」と言われた作品をコレクション展示の中に見つけることができました。



パブロ・ピカソ「闘牛場の入口」1900年 富山県美術館所蔵
©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)

2018年奨学金授与式開催

◆音楽奨学生 ◆彫刻奨学生

音楽学部新入生
ガイダンス会場



福本泰之 音楽学部長のインタビューに答える
奨学生のみなさん



深井 睿子さん
(サクソ)



鵜殿 里菜さん
(ピアノ)



倉地 佑奈さん
(作曲)

この奨学金制度は、当財団が芸術振興の一助として、同大学の学生を対象として2009年より実施しています。多くの学生の中から奨学生に選ば

れた3名に、市橋淳平常務理事から奨学金が授与されました。奨学生たちは、新入生が見つめる中、福本泰之音楽学部長からインタビューを受け、選ばれた喜びとこれからの抱負を熱く語りました。今回の3名を加えると奨学生は31名になりました。

2018年4月5日、愛知県立芸術大学において、第10回音楽奨学生奨学金授与式が、入学式終了後の音楽学部新入生ガイダンス会場で行われました。

2018年6月22日、財団ホールにおいて、第34回彫刻奨学生奨学金授与式が行われました。この奨学金制度は、1985年から実施されており、今回の5名を加えると、これまでに124名が奨学生に選ばれています。奨学生の作品は左記のとおりです。今後の作品も楽しみです。

音楽奨学生 奨学金授与式

彫刻奨学生 奨学金授与式

富山市ガラス美術館

現代ガラスアートが持つ魅力と未来に向けての可能性を富山から発信していこうと、「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの集大成として一昨年に開館した美術館。建築家隈研吾氏が設計を手がけました。図書館やカフェ、ミュージアムショップと共に複合施設「TOYAMAキラリ」内にあります。



富山県産材のルーバーを活用した温もりのある空間はあたかも森の中にあるよう

現美新幹線

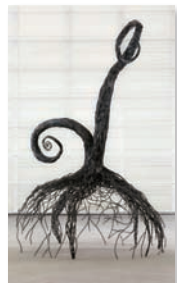
「世界最速の芸術鑑賞」とは、新幹線で移動しながら現代アートを鑑賞するというユニークな演出。アーティストがこの列車のために制作した作品が、11号車から16号車の各車両に展示されています。



11号車 松本 尚



14号車 石川 直樹



「鳥に這う」
田附 希恵さん
(女子美術大学大学院)



「水面」
植松 美月さん
(日本大学)



「拡張と破壊」
飯塚 七海さん
(日本大学大学院)



「竜」
小林 源弥さん
(日本大学)



「あの頃の思い出」
羽鳥 真早雄さん
(多摩美術大学大学院)



後列左から、
田附さん、羽鳥さん、
植松さん、小林さん、
飯塚さん

前列左から
鞍掛日本大学教授、
大槻日本大学教授、
市橋常務理事、
村井多摩美術大学教授、
平戸女子美術大学教授

ご報告



あの目を忘れない…。
3・11に集い、祈り、学ぶ。

東日本大震災鎮魂 コンサートvol.5

—想いを胸に生きる—

2018年3月11日、当財団主催による「東日本大震災鎮魂コンサートvol.5」が、めぐろパシモンホール小ホールで開催されました。

14時46分、地震発生時刻に合わせて全員で黙祷を捧げた後、第1部では講師、宝井琴柑さんによる新作講談「伊達政宗と震災復興」が読まれました。東日本大震災からちょうど400年前の1611年に起きた、東日本大震災と同規模とされる慶長三陸（奥州）地震津波のお話です。仙台藩主、伊達政宗がいかにして復興へ



フォーレのレクイエムを学ぶ歌う会・北野財団フォーレ・アンサンブル

の道を押し進め、仙台藩を発展させたのか、張り扇を小気味よくパンと叩きながら読まれました。

第2部では、公募により集まった約70名の合唱団員が半年間か



指揮：澤村杏太郎さん



講談：宝井琴柑さん

けて練習に励んだフォーレ作曲「レクイエム」とモーツァルト作曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を、澤村杏太郎さん指揮の下、小編成オーケストラとハープの音色と共に演奏し、会場は鎮魂の想いでひとつになりました。

コンサート後には解団式があり、指揮者をはじめご指導いただいた先生方やソリストから感謝の挨拶がありました。

第5回を迎えた鎮魂コンサートは今回で一日幕を下ろし、次回からはチャリティーコンサートと



ソプラノ独唱：藤井 冴さん



バリトン独唱：小林大祐さん

して生まれ変わります。
なお、コンサートによるチケット収入は被災地復興に役立てていただくよう、目黒区を通して被災地へ寄付されました。

2017年度 広東工業大学 奨学金授与式開催

2018年4月3日、中国・広東省にある広州斯坦雷有限公司において、広東工業大学奨学生に対する奨学金授与式が行われました。2006年に始まった同校への奨

学金制度は今回の10名を加えるとこれまでに120名の学生に奨学金を授与しています。授与式では、広東工業大学の藍鏡彬副社長、張家輝先生出席のもと、広州斯坦雷有限公司の富永総経理から各5,000元の奨学金が授与され、奨学生たちは、その喜びと今後の抱負などを熱く語りました。その後、奨学生たちは工場見学を行い、興味深く説明を聞いていました。



奨学生と関係者のみなさん



今後の抱負を語る奨学生

2018年度 財団奨学生決定

今年度の財団奨学生が決定しました。たくさんのお応募者の中から、科目等履修奨学生15名、放送大学選科履修奨学生15名、放送大学大学院修士全科奨学生10名が選ばれました。今後の成果に期待します。

科目等履修奨学生

氏名(年齢)	履修大学
石郷岡 真(60)	國學院大學
一色 勇人(28)	明治大学
稲垣 光代(33)	大阪大学
梶原 めぐみ(37)	京都府立大学
齋藤 徳子(40)	國學院大學
柴崎 弘美(51)	國學院大學
白水 一郎(46)	明治大学大学院
田村 裕介(29)	早稲田大学
寺浦 久仁香(52)	早稲田大学大学院
中島 真梨(34)	関西学院大学大学院
長濱 聖(40)	和歌山大学
中村 秀子(60)	熊本大学
西口 敬文(31)	筑波大学
福富 俊幸(56)	法政大学大学院
松原 みずえ(59)	北海学園大学

氏名(年齢)	履修大学
飯村 章子(47)	大山 亜紀子(36)
川畑 とし子(54)	歙崎 賢三(32)
佐藤 肇治(49)	佐藤 敏樹(38)
高橋 往代(60)	武田 ひとみ(51)
塚田 けえこ(52)	豊田 実恵子(46)
(中野渡由佳里)(34)	波形 なつき(39)
縄田 陽介(39)	譜久里 紀子(39)
松本 明子(38)	

放送大学選科履修奨学生

放送大学大学院修士全科奨学生

氏名(年齢)	履修大学
天谷 真彦(37)	井口 順子(49)
井上 悦子(50)	高橋 芳美(40)
武井 英夫(64)	橋目 玲奈(30)
原田 禎忠(54)	村上 竜雄(46)
吉澤 光崇(41)	吉田 雄一朗(28)

お知らせ



デジタル一眼レフカメラ入門 湯河原・熱海を撮る

デジタル一眼レフカメラの入門講座です。講義・撮影実習・作品撮影と講師・懇親夕食会など盛りだくさんの内容です。後日、中目黒G.Tギャラリーで作品展を開催します。

日程 9月4日(火)～5日(水)
会場 ニューウェルシティ湯河原
(撮影は熱海周辺)
定員 20名

美術研修(その57) 大地の芸術祭を訪ねて

―越後妻有
アートトリエンナーレ2018

日本有数の豪雪地、越後妻有(新潟県十日町・津南町)を舞台に3年に一度開催されている世界最大級の国際芸術祭を2日間にわたって鑑賞します。

日程 8月23日(木)～
24日(金)
定員 40名



脱皮する家

表紙ギャラリー

当財団の使命は、一生学び続ける人を応援することです。学ぶ人が、今日よりも明日、一歩でもよくなろうと努力するには、目標が必要だと思えます。そこで、世のため、人のために偉業を成し遂げた偉人を目標に掲げたいと考え、財団機関誌の表紙に登場いただくことにしました。

鈴木貫太郎 (1868～1948)

貫太郎は、軍人を目指して海軍兵学校に入学し、日清戦争に従軍。その後、日露戦争では、装甲巡洋艦「春日」の副長として大いに活躍しました。その戦いぶりは「鬼の貫太郎」「鬼の艇長」と評されました。こうした活躍から海軍次官、海軍大将を歴任し、1924年(大正13年)には連合艦隊司令長官、海軍軍令部長にまで出世しました。

海軍での長年の経験とその人柄が評価され、昭和天皇より侍従長のオファーが届き、困惑するもお受けし、天皇陛下の良き話し相手、ブレーンとして活躍しました。1936年(昭和11年)には「二・二六事件」が起こり銃弾を受けますが、心停止状態から蘇生しました。

1941年(昭和16年)に始まった第二次世界大戦の戦況は悪化の一途をたどり、1945年(昭和20年)頃には、すでに日本の敗北は決定的でしたが、政府の一部は降伏を認めず、本土決戦に臨もうとする機運が高まっていました。これに心を痛めた昭和天皇は、戦争の早期終結をさせるべく、77歳となった貫太郎に次期総理大臣となるよう打診しました。貫太郎は辞退を

しますが、懇願され歴代最高齢の第42代内閣総理大臣に就任し、戦争の早期終結を目指し奔走しました。

長崎の原爆投下の翌日、8月10日にポツダム宣言に対する協議をするべく、御前会議が開催されましたが結論が出ず、膠着状態に陥りました。貫太郎は、8月14日の御前会議で降伏するか、否かを天皇陛下に判断していただくとする「聖断」を仰ぎ、太平洋戦争を終結に導きました。天皇の信任厚い貫太郎であったからこそできた決断でした。



写真提供・所蔵：鈴木貫太郎記念館

こ・ち・ら・編 集 室

2018年度の財団奨学生が決定しました。子供の頃からの夢に向かって再チャレンジする方、資格取得に挑戦する方、知識を更に深めて仕事に生かしたい方など、学ぶ理由は様々です。そんな学ぶよろこびに少しでも貢献できることをうれしく思います。「いつでもどこでも、だれでも学ぶ機会を提供すること」が財団の使命です。何かを学びたいと思っても、何らかの理由でなかなかその一歩を踏み出せないでいる方の背中をそっと押すことができるよう、これからも財団は様々な事業活動をおこなってまいります。

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより

第117号

2018年7月10日発行

編集人 市橋 淳平

発行人 北野 重子

発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会

〒153-0053

東京都目黒区五本木1丁目12番16号

電話 東京 03 (3711) 1111

スタンレー電気株式会社
顧問**古屋 滋**さん
SHIGERU FURUYA

「学び」の扉を開いてほしい 生きる喜びを感じるために、

2017年より当財団の評議員を務める古屋さん。
当財団の存在意義や学ぶことの大切さについて、ご自身の実体験を元に語っていただきました。



— 趣味は何ですか？

35年以上続けているゴルフを今も続けており、今後もプレイできるようジムに通って体を鍛えています。

また、3年ほど前からペン習字の教室に月2回通い、筆ペン、付けペン、ボールペンを習っています。字がキレイな人はそれだけで品格を感じさせます。私も字がキレイになりたいと思って始めました。教室には年下の女性が多く最初は気恥ずかしさがありました。「やりたい」という強い思いから一歩踏み出しました。少しずつ上達し、今は初段です。これからも続け、ゆくゆくは写経などもやってみたいと思っています。

— 読者の皆さんにメッセージをお願いします。

人は一人では生きていけません。誰しも、誰かの役に立ち、喜ばれ、慈しまれ、頼られて生きていくことに喜びを感じると思います。そうした機会を得るためにも、新しい「学び」を始めることはとても有意義なことではないでしょうか。ぜひ、「始めたい」と思った時に思い切って一歩踏み出してみてください。私は財団を通して、皆さんのそうした思いを精一杯支援したいと思っています。

現役時代に長く技術職を務めたこともあってか、日本の伝統的な技術や工芸品に詳しい古屋さん。「まずやってみる」とを大切にされるお考えには、技術者らしい「学び」への強い意欲を感じました。これからも現役時代と変わらぬ活躍をされることをお祈りいたします。

— 昨年、当財団の評議員に就任されましたが、北野財団にはどのような印象をお持ちですか？

人はどのような環境にあっても、知りたい、見たい、といった欲求を抱くもので、それらは「学び」の入口になります。「いつでも どこでも だれでも」学ぶ機会を提供する北野財団の活動は、人のそうした願いに応えるものといえるでしょう。

財団の活動は幅広く、若い方からご年配の方まで、実に多くの人が財団の支援を受けて学びに励まれています。また、フィリピンのミンダナオ子ども図書館への助成などは、グローバルに事業を展開する企業の財団にふさわしい活動だと思います。このような意義ある事業を

行う財団に評議員として加わることができ、深く感謝しています。

— 財団の事業で特に興味深いものは何ですか？

歴史研修や伝承研修にとっても興味がありますね。現代はグローバル化が進展し、特に若い人には歴史や伝統的な文化に触れる機会が少なくなっていると感じるからです。

昔の日本人はすばらしい感性と技術を持っていました。例えば、中世に築城された熊本城の石垣には地震による外力を分散させる仕掛けがあったことが、2年前の熊本地震で図らずも証明されました。全国の城跡を訪ねて講師の解説を聞く歴史研修は、そのような技術を知る格好の機会です。伝承研修も同様です。昔の日本人が当たり前のこととしていた暮らしの中の知恵や文化を知ることとは、同じ日本人としてとても大切なことと言えるのではないのでしょうか。

私は長く技術職を務めました。未だ形になっていないものを想像して図面を引く時など、城や伝統工芸品を見てヒントを得たことが何度もありました。歴史ある事柄に触れることは新たなアイデア

— 「学び」を始める上で大切なのは何だと思いますか？

江戸時代の米沢藩主・上杉鷹山に「為せば成る、為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉があります。私はこの言葉が好きで、現役時代からずっと実践し続けてきたつもりです。すなわち、何事もまずは行動に移すことが大切で、結果は後からついてくるもの、何もしないことが問題だ、という意味です。

恥ずかしながら、私は現役時代に多くの失敗がありました。しかし、この言葉を信じて実行してきたお陰で今があると思っています。間違っても良いのです。まずは「やろう」と思ったことを実行に移すことが大切です。後のことはやりながら考え、その都度軌道修正していけば必ず成し得ます。



習字に通い始めて3年以上。これからも、生涯を通して続けたいと思っています